

名古屋の古道・街道

池田 誠一

【23】 郡 道…滝子から古井の坂へ

1 明 治 の 道

古い雰囲気を残している道の中に「郡道」と呼ばれる道があります。郡というものが出来たのは律令制の時代までさかのぼりますが、郡に役所があり、事業を実施していたのは明治から大正にかけての30年程になります。郡道とはそのときに役所としての郡が定めた道ということになります。

そのため、各地には多くの郡道があり、市内でも愛知郡を始め、西春日井郡、東春日井郡、知多郡の郡道が何本もありました。(表1)ところが郡という役所がなくなるとともに郡道は県道や市町村道に振り分けられました。大正の終わり頃のことです。

そして新しい道の名前の方が定着し、郡道は次第に忘れられていきました。

それらの中で、今でも郡道と呼ばれてその面影を残している道があります。今回紹介する郡道、正式には「郡道・千種街道」はそのもっと

も有名なものです。

2 多くの郡道の中での「ザ・郡道」…千種街道

(1) 二つの郡道

郡道は時期によって二つに分かれます。明治維新以降の道路の制度の確立の中で、大正9年に道路法が施行されました。この中で、それまで街道と呼ばれていた道路は現在のように起終点の地名に線を付けて呼ばれるようになりました。「郡道○○街道」だったものが、「郡道○○・××線」に変わったのです。路線も、郡道とはこういう区間を指定するという9つの原則が

街道名	起 点	経 由	終 点	街道名	起 点	経 由	終 点
中 村	名古屋停車場	中 村	菟目寺村	足 助	名古屋市出来町	猪高村	保見村(西加茂)
平 針	熱田停車場	呼統村	天白村平針	栄	名古屋停車場	中 村	枇杷島町
大 高	笠寺村	鳴海町	大高停車場	愛 知	小雛村	荒子村	中村公園
瀬 戸	千種停車場	猪高村	瀬戸町	豊 田	呼統町		名古屋港東築地
呼 統	呼統町		天白村平針	塩 付	笠寺村	御器所村	宇山町(東春日井)
常 盤	名古屋停車場	愛知町	蟹江町	二 村	鳴海町	豊明村	東郷村春木
大 治	名古屋停車場	中 村	大治村	中 間	名古屋市新栄町	猪高村	日進村三本木
枇 杷 島	名古屋港西築地	荒子村	枇杷島町	八 事	名古屋市沢上	御器所村	天白村八事
小 雛	稲永新田	小雛村	下之一色町	千 種	呼統町千塚	御器所村	千種町
八 幡	尾頭町		八幡村	高 田	熱田兵器製造所		県立五中
下之一色	名古屋停車場	常盤村	下之一色町	富 田	千種停車場	東山村	東山村鍋屋上野
鳴 海	鳴海町	猪高村	旭村(東春日井)	笠 寺	名古屋港東築地	笠寺村	鳴海町
柳	名古屋停車場	愛知町	常盤村烏森				

表1 愛知郡の名古屋市域に関連する郡道(大正9年まで)



図1 郡道・千種街道(大正9年)

から北に御器所台地のほぼ西の角を、大喜、高田、と進みます。そして御器所を通過して北山を経て飯田街道の古井の坂に出るものです。(図1)

3 滝子から古井の坂へ

郡道千種街道を歩いてみましょう。全区間は少し長いので途中の滝子から北に進んでみます。滝子は地下鉄の桜山駅の西1*。弱の所で、戦前はその少し南にある八高や五中の学生で賑やかでした。5差路の交差点を北に商店街に入ります。道の左は下っており台地の角であることが分ります。

滝子から300*ほど北に入った右側に、直ぐ突き当たって右に曲がっている道があります。この先に江戸時代は広見池という大きな池がありました。それを埋め立てた後が今では向陽高校や桜山中学になっていますが、道の突き当たりのところには愛知郡の郡役所がありました。

街道に戻り2本ほど進んで左に200*ほど行くと右に御器所八幡宮が見えます。古くは八所大明神と呼ばれましたが戦国時代、この付近の主、御器所西城の佐久間家勝が修築しました。大きな森が見事です。神社の入口右には医王山神宮寺があります。この寺の歴史も古く、9世紀に嵯峨天皇等の勅願でできた熱田神宮に由来する寺とされています。今は小さな境内に薬師仏を奉る本堂のほか幾つものお堂が並んでいます。

*

街道に戻ると出口という交差点があります。西に真直ぐ東別院につながる道ですが、100*ほどの所がピークになっており北側に地元ではイボ神様と呼ばれる祠があります。この辺りは

決められたため、一気に沢山の郡道が出来ることになったのです。

しかし3年後の大正12年、郡役所の機構が廃止されてしまい、それらの郡道の大半は整備されず、定着しないままに終わりました。従ってここで取り上げる郡道は道路法の出来る前の街道という名を持つ郡道にしたいと思います。

(2) 郡道・千種街道

愛知郡で郡道とされたものは33本。今の名古屋市内に関係するものは表1のように25本ありました。しかし郡の予算が制約される中で1部の路線の、しかも必要な区間しか整備が進みませんでした。その中で郡の重要路線として整備されたものの一つがこの千種街道です。

ルートは南が千電、東海道の山崎橋の少し西



5差路の滝子を北に



見事な森の御器所八幡宮

戦国時代に御器所東城があったと考えられる所です(県教育委、中世城館跡調査報告から)。

祠から北に2本、西に1本行った角にある御所屋敷跡は豊臣秀吉の出生地と言う説のある所です。その説では、秀吉の母のなかは持萩中納言と呼ばれた人の息女で、中納言は宮中で失策があって一時ここ村雲の里に住んだとされます。



秀吉が生まれた？
御所屋敷跡

この辺りも台地は西に張り出しており、その先の角に尾陽神社があります。この神社は大正時代にここに移ってきたもので、元は佐久間家勝の築いた御器所西城の跡とされます。西と北に大きく落ち込んでおり、北側の谷(今の天池通)の向こうに佐久間家の菩提寺として竜興寺が建てられました。その後その谷に土手が築かれ大きな竜興寺池が出来たのです。池の取り去られた今、竜興寺は階段を5、6段上がっています。この寺は戦災で被害にあいましたが、本堂を再建する時に財界人藤山雷太が建築の料をこらした伊豆の別荘(和館)を移築しました。

*

竜興寺の北の大通を右に上ると荒畑です。郡道はずっと商店街が続いています。北に進み、2本目を左に入った所に小酒井不木の居宅跡の案内板があります。不木は東北大学の医学部助教授でしたが病で故郷に戻り、この地に10年住んで40歳で亡くなりました。江戸川乱歩を育てたわが国の推理小説草創期の第1人者といわれています。



初代藩主義直等をまつる尾陽神社



藤山雷太の別荘を移した竜興寺

郡道は北山本町に入ります。この辺りから北に、1本西にある道は郡道の出来る前からの古道だといえます。2、3本の細い道がわずかにくねりながら続き、途中には石仏が集められたお堂もあります。郡道にも昔は屋根神様がありましたが、今では北山本町の交差点の1本手前の喫茶店の横に下ろされた神様が残っています。

交差点を過ぎたら1本西の古道に入りましょう。その左は名工大で、少し行くと東門があります。大学の中に入って西北100位の所に一本松古墳があります。この一帯、古くは海岸に近く古代から人が住んだ跡が幾つもあります。この古墳は5世紀のもので、円墳とされており、



名工大の中にある一本松古墳



地元の人々によって守られる吹上観音

埴輪も出土しました。

大学を出て古道を北に進むと、百_ノ道路の少し手前の左側に吹上観音があります。元は百_ノ道路の辺りにあった名古屋新田を開発した小塚家にまつられていたものです。併せてこの辺りにあったいくつかの古墳の追悼の意味も込められているとの由来が書かれています。

百_ノ道路を越えた郡道は八幡社の横を過ぎて少し歩くと古井の坂で飯田街道に出ます。

4 愛されて「郡」の道

多くの郡道の中でなぜこの道が「ザ・郡道」として残ったのでしょうか。一つには先に紹介したように、この沿線に郡役所があったことです。愛知郡役所は大正7年に熱田からここ御器所村に移されました。その裏には地元の誘致があったといわれます。そのため道路法の出来た後には、ここが起点となった郡道は12本になり、郡道中の郡道になりました。

今一つは、出来たタイミングと地元の支持ではないでしょうか。明治40年頃、この御器所台地の西に相次いで名高工、五中、八高が出来ました。郡道はそのアクセスとして整備されたと考えられます。全くの新道としてトップをきって出来たため「郡道」の名で呼ばれ始めたように思えます。そこに学生向けの商店街が出来、大正になるとこの台地は新しい住宅地としても注



郡道は100_ノ道路をこえて古井の坂へ

目を集めるようになります。そして昭和の初めには路線バスが走り出します。

そのバスは郡道バスと呼ばれ、商店街の活気とともに「郡道」の名は名古屋の中で定着していたのではないのでしょうか。(図2)

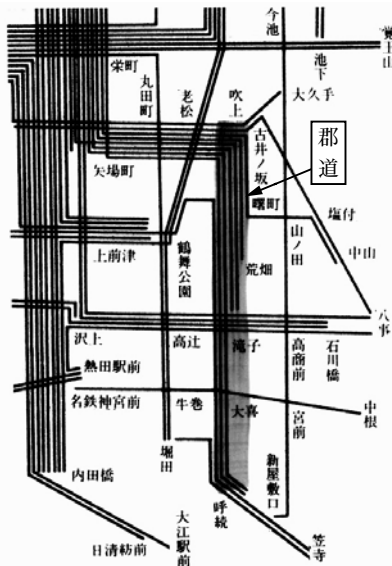


図2 郡道に多くのバス路線が集中する
(昭和十二年 交通局五十年史)

昭和41年、車両制限令で一定の幅のない道路では車両が走れないようになりました。郡道は道幅が狭く大型車の通行は出来なくなりバスは別のルートに変わりました。それでも郡道は地元の中で支持され、今も元気をみせる街になっています。

大根の 里やなごりの 郡の道

〈主な参考文献〉

- ①「愛知郡誌」(1923、愛知郡役所)
- ②「市営50年史」(1970、名古屋市交通局)
- ③「昭和区誌」(1987、昭和区役所)